

IT企業列伝

ソフトウェア販売のアシストは、パッケージ製品の販売に特化した専門商社だ。国内外のメーカーの60製品を取り扱い、顧客企業が抱える課題の解決に向けて最適な製品・



小林太一支社長

サービスを提案する。運用開始後の手厚いサポートも強みだ。

創業者のビル・トッテン会長が1972年に設立した。米国から市場調査に訪れたトッテン会長が日本市場の可能性を見出し、自らパッケージ

アシスト中日本支社

中部企業のデータ活用サポート



コミュニケーションを重ねて積極的に提案する

ソフトウェア販売の事業を切り開いた。現在は約5600社と取引するまでに成長。全国10カ所に営業やサポートの拠点を置く。

中日本支社は、82年に4人で立ち上げた、旧名古屋営業所にさかのぼる。愛知、岐阜、三重、静岡の4県を管轄し、技術者や営業担当者など約70人が在籍する。大手製造業を中心に、約400社と取引している。

▲メモV本社＝東京都千代田区、中日本支社＝名古屋市
中区錦1の11の11▽電話＝052・232・8211(中日本支社)▽売上高＝211億円(2013年12月期)▽従業員数＝850人

①データベースの構築②データ分析などの情報活用③品質強化やシステム運用などのITマネジメントの三つだ。汎用性の高いソフトとサービスを組み合わせた独自の商品を展開する。

中日本支社長 小林太一取締役兼常務執行役員は、事業戦略について「IT業界の工務店」と強調する。さまざまなソフト

また、サポートを重視し全国5カ所の拠点で対応している。社員の約6割がエンジニアなどの技術系で、問い合わせや緊急時の対応のほか、研修や技術支援などを通してソフトを使いこなすための手助けをする。

今後、製造業が多い中部地方では、情報活用分野のニーズが増加すると見込む。製造業は他の業種と比べると、データを蓄積し活用している企業がまだ少ないという。経営や現場の課題を適切に聞き取り、積極的に踏み込んだ提案をしていく。小林支社長は「データを経営に生かす、という考え方を定着させたい」と意気込む。